

- I. 日時：平成 21 年 8 月 1 日(土) 午後 0 時から午後 2 時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者：林委員長、中嶋、望月、山田、児島、渡邊
井端事務局長、森下、恩田
- IV. 検討事項

検討事項 1. 学士力の詳細設計について

1. 事務局より資料内容について説明。
2. 資料①に基づいて、委員長より「経済学教育を通じて培う「学士力」，「経済学の学士力を培うコアカリキュラム」そして「コアシラバス」について説明がなされた。
3. 委員より資料②に基づいて、「経済学部のコアカリのイメージ」，「経済学部の学士力」，「(学士力の)測定方法」さらには「アメリカのモデルシラバス」について説明がなされた。
 - ・ コアカリについては、資料①の p.2 で示された科目に◎を付けていく案が出され、委員からは、資料②p.1 コアカリ概念の違いで示された②(最低限必要な知識を身につけることを重視した分類)で検討したらよいのではないかという意見が出された。
 - ・ 事務局からは、コアカリが資料②p.1～2 に示されている経済学部の学士力(1.理論, 2.歴史, 3.政策, 4.分析技能, 5.経済倫理, 6.総合力)の中にどのような科目が入ってくるのか議論したほうがよいという意見が示された。
4. これらの議論を踏まえ、委員会としては、
 - ① コアカリは、学士として最低限身につけるべき科目のイメージとして作成する。
 - ② 私情協委員会としては、科目のコアだけ作成し、最低限以外の科目(応用・専門)等に関しては、各大学に委ねる方針とする。
 - ③ コアカリのシラバスについては詳細に作成するが、コアカリ以外はイメージを示す(あるいは例示的に要約を示す)。
ということが確認された。加えて、基本方針として「～を理解できる」を因数分解して、「何と何が理解できないといけないのかを詳細に明示する」ことを念頭に置き、10月下旬までにまとめることになった。

宿題

本日の検討、資料を参考に委員により経済学の到達目標のたたき台を作成する。締め切りは 8 月末まで、経済学教育 FD/IT 委員会 ML に投稿する。

次回の委員会

9 月 14 日(月) 14 時～16 時とした。